

袋井市教育委員会 会議録（要旨）

会 議 名	令和 8 年 6 月 袋井市教育委員会 定例会
招 集 日 時	令和 8 年 6 月 29 日(月)午後 1 時 30 分
会 議 時 間	午後 1 時 30 分から午後 2 時 56 分まで（1 時間 26 分）
場 所	袋井市教育会館 3 階 I C T 研修室
出 席 者	山本 裕祥 教育長 鈴木 万里子 委員 溝口 知秀 委員 吉田 陽子 委員 山本 茂広 委員 (計：5 人)
傍 聴 者	なし
当局出席者	鈴木 啓介 教育部長 小澤 一則 教育監 小池 信良 教育企画課長 戸塚 建司 おいしい給食課長 荒浪 健 教育保育課長 田中 慎 学校教育課長 金原 辰夫 学校教育課参事 小久江 暁子 生涯学習課長 白井 啓子 袋井図書館長 大石 隆之 教育企画課課長補佐 廣岡 真理 教育企画課教育総務係長 (計：11 人) (合計：16 人)
会議に付した 事 件	別紙「令和 8 年 6 月 袋井市教育委員会定例会 議事日程」のとおり

令和 8 年 6 月 袋井市教育委員会定例会 日程

日時：令和 8 年 6 月 29 日(月)

午後 1 時 30 分開会

場所：教育会館 3 階 I C T 研修室

会 議 日 程

- 日程第 1 開 会
- 日程第 2 会議録署名委員の指名；
- 日程第 3 会議録の承認
- 日程第 4 教育長報告
- 日程第 5 教育部月例事業報告
- 日程第 6 議 事（会議に付すべき事件）

（１）報告事項

- 報第 65 号 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書(2025 年度事務事業)について
- 報第 66 号 寄付の受納について
- 報第 67 号 袋井市協働まちづくり事業 あびあび～みんなの秘密基地～
- 報第 68 号 令和 7 年度 袋井市子ども読書活動推進計画 I(第 4 次) の取組状況について

日程第 7 その他

6 月市議会報告

（１）連絡事項

- ア 令和 8 年度 高校生学術交流事業について
- イ 令和 8 年度 青少年の被害・非行防止強調月間の取組について
- ウ 令和 8 年度 総合教育会議について

（２）次回定例会等の予定について

7 月教育委員会定例会

令和 8 年 7 月 2 8 日（火） 午後 1 時 3 0 分 教育会館 3 階会議室
総合教育会議

令和 8 年 7 月 1 6 日（木） 午後 1 時 3 0 分 袋井市役所 庁議室

日程第 8 閉 会

1 開 会

● 教育長

2 会議録署名委員の指名

● 教育長

溝口委員と吉田委員 を指名

3 会議録の承認

● 教育長

5月の定例会の会議録については、承認

4 教育長報告

● 教育長

資料にて確認

5 教育部月例事業報告

● 教育長

資料にて確認

6 議事

【報告事項】

報第 65 号 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書
(2025 年度事務事業)について

●教育企画課長（資料に基づき説明）

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、令和 7 年度の教育委員会事務の管理・執行状況について外部有識者の知見も活用して点検・評価を実施し、その結果を議会報告・公表するための報告。

○点検・評価の対象と方法（対象は大きく 3 分野）

- ・教育委員会の活動（会議・委員活動等）…6 項目
- ・法定事務（教育委員会が管理執行する事務）…17 項目（件数報告のみ、評価対象外）
- ・教育長に委任している事務（教育委員会独自の個別事業）…12 項目（総合計画と紐付けて評価）
- ・指標のある事業については達成率等に基づき、A～D の 4 段階で評価。
評価は数値指標と事業全体の取り組みを総合判断して実施。

○主な評価結果（要旨）

- ・教育委員会活動

- ・情報発信：報道機関への提供件数は102件で前年度と同数。市ホームページ内の周知ページ新設を反映し、総合評価は「B」。

- ・教育現場の実情把握：幼稚園・保育所・小学校の訪問回数は減少したが、訪問結果の共有化（教育委員会定例会での共有）を進めたため、前年の「B」から「A」へ評価向上。

- 教育長に委任する主な事務（抜粋）

- ・政策1（子どもの育ち支援）

- 放課後児童クラブ：定員増を図るも需要が高く、4月1日現在の待機児童30人等を踏まえ、「B」評価。

- 部活動の地域展開：袋井地域クラブ「F活」の公募、指導者研修、放課後活動「ふっくらぶ」準備等を実施（取組成果として評価対象に記載）。

- 政策6（市民の学び・地域づくり支援）

- ・家庭教育学級等の参加者が増加し、体験学習の実施等により評価が「C」から「B」へ改善。

- ・総括表：各項目の評価を一覧で提示（資料21頁参照）。

- 外部評価者（実施体制）

- ・学識経験者等による評価を実施予定

- 全体視点：安藤（常葉大学大学院）

- 社会教育視点：渋江（静岡大学教育学部）

- 学校教育視点：柳瀬（静岡教育事務所長）

- 指摘・所見（報告内の主な示唆）

- ・指標により達成度を把握しつつ、共有化・連携による現場理解の深化が評価向上に寄与した点が確認された。

●吉田委員

7頁「点検及び評価」の「教育委員会行事への参加」（令和8年度の目標・取組）の記載内容が「学校訪問」との関係で分かりにくく、表現のずれを感じるとの指摘。具体的には「教育委員会の行事参加」と「学校訪問」が混同されているのではないか、という疑問が提示された。

●教育企画課長

学校訪問と当該行事参加は別項目である旨を説明したが、表現に違和感がある点を受け、内部で再協議のうえ検討・修正すると回答

●鈴木委員

教育委員会自身（委員）が行う学校訪問等について、誰が評価主体となるのか（実施主体と評価主体の整合性）、満足度の測定基準は何か、といった点の疑問が提起された。委員自身が実施した活動について委員会側でどう評価しているかの説明を求める意見が出た

●教育企画課長

昨年度は訪問回数は減少したものの、訪問結果を教育委員会定例会で共有する運用を始めたため、単に「訪問して終わり」ではなく共有化が進んだ点を評価に反映した旨を説明。共有化の有無が評価向上の理由であると説明した。

●吉田委員

学校訪問の評価が「委員が知ることへの満足度」ではなく、教育委員会として訪問がどれだけ有意義であったか(教育委員会の業務・成果に資するか)を評価しているのかを明確にしてほしいとの指摘があった。

●教育企画課長

これまでは「訪問して終わり」となっているケースがあったが、訪問結果を教育委員会定例会で共有する仕組みを導入したため、その共有化の取り組みを評価に反映したとの説明。

ただし、訪問後の共有化が進んだことを理由に評価を上げた点については、受け止めに差があることを認め、再検討する意向を示した。

また、外部有識者とのやり取りで他自治体の事例等を聞いているかとの問いに対しては、現時点ではそうした情報は得られていない旨を回答。

●鈴木委員

訪問を実施する側（委員等）と評価する主体が同一になっている点、満足度や評価基準が明確でない点への懸念が示された。

誰が何をもって評価するのか（評価対象・評価者・評価基準）を整理する必要があるとの指摘。

●教育長

評価のあり方（何をもって誰がどう評価するか）は難しい論点であり、現状の表現や運用には整理が必要と認める発言。

組織改編や扱う業務量の変化に伴い、評価指標や評価方法の見直しが必要になる可能性があるとの指摘。

○今後の方向性（教育企画課長）

・A～Dの段階評価に加え、数値で効果が現れにくい取組については「実施したこと自体（プロセス）」を評価に含める等、評価方法の多角化を検討する旨を表明。

・総合計画との整合性を図りながら評価方法を見直していく考えであり、委員への事前相談・説明を行いながら進めたいとした。

●教育企画課長（資料に基づき説明）

寄附者：周南中学校 PTA 会長

寄附物件：回転書架（新書用 6 段）1 台、回転書架（文庫用 7 段）1 台

寄附先：周南中学校

納付日：令和 8 年 6 月

○寄附の目的

図書の保管場所不足の解消、児童生徒が本を探しやすくすること、図書館利用の促進および図書活動の推進を目的として寄附をいただいた旨報告。

報第 67 号 袋井市協働まちづくり事業 あびあび～みんなの秘密基地～

●学校教育課長（資料に基づき説明）

事業名：袋井市協働まちづくり事業「あびあび みんなの秘密基地」

主旨：学校が苦手な子どもたちとその保護者の居場所づくり。子どもが無理なく社会参加できる「居場所」としての機能を目指す。

実施期間：令和 8 年 6 月～令和 9 年 3 月（当面 1 年間）

実施場所：山名コミュニティセンター（毎月 2 回、午前）

運営主体：吉田委員を中心としたチーム（学校教育課と協働、ボランティア・有資格者等が参加）

補助金：協働まちづくり事業補助（事業費 20 万円、スタートアップ 10 万円）

スタッフには保育士資格保有者や、不登校支援経験者、特別支援関連の保護者会立ち上げ経験者等が参画。

子ども若者家庭センター（子ども支援課）担当者も視察に来訪し、連携の動きあり。

・実施状況（これまでの経過）

6 月 2 日：プレオープン（採択前・自己資金）で参加者 13 名（未成年 2 名含む）。

6 月 19 日：事業採択後の第 1 回実施で参加者 12 名（未成年 3 名、若者 1 名等）。近隣の不登校児（小 1）などの参加あり。

当日は大人同士の語り合い、子どもが大人や同年代と交流できる場として機能している。

・広報・情報発信

7 月までの実施チラシを配布済み。Instagram の QR コードを活用した情報発信を行っている。参加者・関係者への周知を継続中。

・要望・今後の支援依頼

引き続き関係機関・委員等の協力を求める。現状は立ち上げ段階であり、継続的な支援（人材・周知・助言等）を希望。

・質疑・意見（要旨）

委員からは当事業の趣旨・活動意義に対する賛同と、今後の発展に向けた協力の表明があった。学校教育課としても協働で支援する旨を確認。

・今後の予定・対応（決定事項）

●学校教育課長

関係機関との連携状況を随時把握・支援する。

●吉田委員

運営を継続し、参加状況や運営上の課題を定期的に報告する。協力要請や助言があれば随時求める。

●教育監

あぴあぴの名前に込めたものはなんでしょうか。

●吉田委員

「アピアツェーレ」は音楽用語で「演奏者の自由に」という意味があり、学校のリズムに縛られず自由に過ごしてよい場、という趣旨を込めている。また、発案者の子ども（「あかり」「ひかり」）らとの関わりがきっかけで不登校支援に関心を持つようになり、その想いも名称に込めたことを説明。

●山本委員

フリースクールの立ち位置は難しく、県教委の対応等も新聞で話題になっている。事例として、学校に行けず担任の「声だけでも聞きたい」と望む子がいる。そうした子も受け入れられる場が重要だと考える。

●教育長

多様な居場所があることが望ましい。子どもが選べること、地域で大人と関われる場があることが大事で、そうした機会が増えれば多くの子どもが幸せになるはず、との見解。

●吉田委員

居場所でエネルギーを貯めて次のステップへ進めることを期待。

●学校教育課長

袋井市では従来フリースクールが少なかったが、西楽寺・吉田さんの取組、北コミセンでの活動など少しずつ場が増えている。

学校以外の居場所を増やすため、宣伝や周知を進めていきたい。

●鈴木委員

多様な居場所が必要。把握できていない地域の場も多いはず。

夏休みの居場所をまとめる案などを検討している。

今後、市（学校教育課）はどの程度協働・支援するのか、将来的に市が複数の特色ある公的施設を整備するのか、それとも民間の立ち上がりを待つのか方針の整理が必要。

経済的理由や養育力不足（ネグレクト等）で学校に行けない子については、市や福祉の関与が不可欠と強く懸念。

平日昼間・休日など時間帯による居場所のあり方（引きこもりの子が出やすい休日の場など）にも着目。

●吉田委員

学校教育課と民間の協働スタンス（どのようにつなげるのか）を明確化してほしいと要望。

●学校教育課長

学内の校内教育支援センターを各校に整備し、学校内での居場所づくりに注力している（運用は本格化して3年目）。

学校単独では対応困難な家庭問題（養育力不足等）には福祉側の支援強化が必要と認識。

学校教育課としては、民間の居場所事業に対して補助等で支援する姿勢を示し、教育委員会のHP等で情報連携・紹介を進めたいと述べた。

●吉田委員

民間での立ち上げ（学校や支援センターに行けない子を受け皿にする活動）を行った経緯を説明。今後、市と民間の役割分担を検討すべきと提起。

●教育長

学校内外の多様な支援を組み合わせる必要性を確認。行政だけでなく他部局や民間と連携して対応していく考え。

報第 68 号 令和 7 年度 袋井市子ども読書活動推進計画 I(第 4 次) の取組状況について

●図書館長(資料に基づき説明)

目的：全ての子供があらゆる機会・場所で自主的に読書できる環境整備等を推進。

第 4 次計画（期間：令和 4～13 年度／13 年間）、本年度は 5 年目（中間年）。

施策体系：基本目標→4 つの基本方針→10 の施策→62 の取組項目。目標指標 3、参考指標 3 を設定。

自己評価基準：○＝実施、△＝一部実施、×＝未実施。

実施状況（令和 7 年度）62 項目中：実施 51（前年度比-2）、一部実施 5（変化なし）、未実施 6（前年度比+2）

実施率：約 82%（前年度比-3 ポイント）

○未実施・実施予定の主な項目

読み聞かせボランティア養成講座：隔年実施で、今年度は実施予定。

静岡県子供読書アドバイザーと連携した図書リスト作成・配布：計画以降未達成。今回は学校向けおすすめ本配信の選定にアドバイザーに一部関与いただく形で連携を図る予定。

ユニバーサルデザインに配慮した表示・探しやすい書架づくり：これまで未実施。予算等の制約があるが、今年度は一歩前進させたい。

児童文学者による講演会：昨年度未実施だが、基金活用で 11 月 1 日に開催予定（ウサギホール）。

コミセンの家庭学級等への読書項目導入：昨年度未実施だったが、今年度 6 月 11 日に山名コミセンで実施予定（実施化）。

・評価の変動

低下（△へ）：中学校でのビブリオバトル（昨年度は 4 校中 2 校実施目標 4 校に向けて働きかけ）。

上昇（○へ）：中学校図書委員会の自主的な図書館運営関与が進展。

・指標の状況

目標指標：「本を読むことが好き」と回答する割合：基準値下回り、前年度比-4.7 ポイント。

「週に 1 度は本に親しむ」割合：基準値下回り、前年度比-4.0 ポイント。

0～8 歳の図書館実利用者割合（0～18 人口比）：基準値は上回るが前年度比-1.3 ポイント。

参考指標（学校図書館貸出等）：中学校の年間貸出は基準超で前年度比+2.2 ポイント。

小学校は基準下回るも前年度比+5.5 ポイント（「まちじゅう図書館」等の効果と推定）。

・計画の見直し

本計画は開始 5 年時点で進捗・効果を検証し見直すことになっており、県の 5 年計画とも整合を取りながら見直しを実施予定。

見直し過程でボランティアや図書館協議会委員らと意見交換を行う計画。

スケジュール案：7 月に見直し概要を議会報告、10～11 月に見直し案提示、3 月に最終案提出予定。

・今後の対応（提案・予定）

未実施項目の着手（読み聞かせ講座、図書リスト連携、ユニバーサルデザイン等）の実施・推進。

ビブリオバトルの全中学校実施に向けた働きかけ強化。

指標低下の要因分析と、読書興味喚起のための施策検討（園・学校連携や図書館の新たなアプローチ）。

見直し作業における関係者との意見交換と、所定のスケジュールで議会報告・提出を行う。

●吉田委員

静岡県子供読書アドバイザーと連携した「おすすめ図書リスト」が未実施だった点に関し質問。

同時期に館が作成する「夏休み前のブックリスト」との違いや意図を確認したいと発言。小学校以降の読書離れを懸念。

●図書館長（説明）

「この本読もうか」は3～5歳向けの夏休み直前号で、図書館が毎年配布している案内。アドバイザー連携のリストは対象が小・中学生で別項目のため、目的と対象が異なると説明。

既に夏休み直前の推薦とイベント周知を行っており、「図書館に来てください」というメッセージも盛り込んでいる。

●山本委員

子どもが偏って同じものばかり選ぶ傾向があるため、図書館や学校で多様な本との出会いを促す工夫が必要との意見。図書館来館で意外な出会いが生まれることを期待。

●吉田委員（追問）

幼児期は読み聞かせが増えているが、小学校以降の読書離れが加速している実感がある。学校側の対応（「借りなくてよい」等の風潮）について懸念。

●図書館長（回答）

学校側の考えもあるため、双方の意向を擦り合わせながら対応を進めたいが、前途は容易ではないと認識。

●鈴木委員

中学生の貸出数が増えたことは評価。夏休み前の貸出指導は継続してほしいと要請。学習指導の中に図書館利用が含まれている点を踏まえ、学校での指導徹底を求める意見。

●鈴木委員

現場ではビブリオバトル等の指標に出てこない独自の好事例(学校での POP 作成等)が多数あると指摘。評価項目だけで現状を判断せず、現場の多様な取組をきめ細かく把握・評価してほしいと要望。

図書室の開館時間や人員不足が貸出等の実績に影響している可能性を指摘。

●学校教育課長

「まちじゅう図書館」整備の効果に期待する一方で、図書館側の課題(人員・運営等)により進められない面があると認識。

●溝口委員

長期計画は良いが、子どもが自発的に本を読むことを最終目標に置き、重要度の高い項目に重点化して早めに見直すべきと提案。達成・未達成に応じた優先度付けや短期的な見直しを求める意見。

●教育長

数値だけでなく「子ども自身が読書を楽しむか」が重要。貸出冊数の増加が中身の変化に直結しない可能性もあるため、質的な取組を重視して学校と連携しながら進めたいと述べ、まちじゅう図書館の成果は評価して今後も活用していきたい旨を表明。

日程第 7 その他

6 月市議会報告

(1) 連絡事項

ア 令和 8 年度 高校生学術交流事業について

イ 令和 8 年度 青少年の被害・非行防止強調月間の取組について

ウ 令和 8 年度 総合教育会議について

(2) 次回定例会等の予定について

7 月教育委員会定例会

令和 8 年 7 月 2 8 日(火) 午後 1 時 3 0 分 教育会館 3 階会議室
総合教育会議

令和 8 年 7 月 1 6 日(木) 午後 1 時 3 0 分 袋井市役所 庁議室

日程第 8 閉 会

(午後 2 時 56 分閉会)